

令和7年度第2回取手市部活動地域移行推進協議会 議事録要旨

日時 令和7年10月7日(火) 午後2時～午後4時00分

場所 藤代庁舎3階 301号室

出席 【協議会委員】

八重樫通委員長、豊島大副委員長、大澤隼人委員、堀田将寿委員、美濃部将文委員、廣瀬隆委員、池田傑委員、飯竹永昌委員、鈴木邦弘委員、石橋陽一委員、丸山信彦委員、稲村忠弘委員
(12人)

【茨城県】

茨城県教育庁学校教育部保健体育課競技スポーツ・部活地域移行担当 指導主事 石川 円

【取手市教育委員会】

教育長 石塚康英

スポーツ振興課(事務局)

副参事 野口勝彦、課長補佐 岡田繭子、学校教育指導員 黒羽勉、小林直也、

主査 井橋貞夫

○報告・議事

(1) 令和7年度の取組について(資料P1～2)

【事務局】

- ・取手市は、「子供たちが主役」という立場で地域移行部活動に取り組んでいる。
- ・今年度は、12クラブ、19部活動がモデル事業を行っている。
- ・どのクラブも県南大会、県大会と出場し、よい活動ができて、よかったと思っている。
- ・広報とりで8月15日号に部活動地域移行の記事を掲載したことで保護者に認知されてきている。
- ・小中学生、保護者、教職員に対しアンケートを実施した。中学生の不安なことは参加費などがあるので保護者の負担が気になるということであった。小中学校の保護者の不安なことは移動中の安全管理や時間がかかるという意見が多かった。また、子供たちのために充実した活動の場を作ってほしいという意見が多かった。教職員は指導にあたることを希望すると答えたのは条件付を含めて35パーセント、希望しないと答えたのは60パーセントであった。来年度の指導者は20クラブで40名を予定しているが、若干少ないがこれが現実であるということである。これから校長先生、先生方と連携を図っていきたいと考えている。
- ・10月以降は中学校を訪問して先生方のヒアリングを実施し指導員としての希望調査を実施していく。また、11月に保護者説明会を2回実施していく予定である。
- ・年内には来年度の実施クラブや指導者を決定し、年明けには子供たちや保護者にも周知したいと考えている。
- ・来年2月には各中学校を訪問し、新入生説明会で説明していく予定。

【委員長】

- ・11月の保護者説明会も2月と同じように学校ごとで行った方がよいと思ったが11月の保護者説明会の場所を2カ所にした理由は→

【事務局】

- ・11月の説明会は中学校の保護者だけでなく、小学校の保護者、地域の方でも話を聞きたいと思っている方がいるかもしれないのでオープンで参加できるように考えている。直接説明する場を設けたいと思っている。

【委員】

- ・中学校は、毎年新入生説明会を2月ごろ行っているが以前クラブを選ぶのが早くなっているというので、民間クラブと部活動を選ぶためには2月では遅いのではないかとということに関してどうしたらいいかということ。また、教員の指導者のことで、平日の部活動は中学校でやるが休日のクラブは勤務外なので学校ではやらないとなると、指導者の件を学校の中でも話を詰めていかないといけないと思っている。

(2) 令和8年度の事業計画について（資料P3～6）

【事務局】

- ・市の事業ではあるが、市が直接やるのではなく、【運営団体】「取手市地域クラブ活動推進協会」を設立して、「取手市中学生スポーツ文化クラブ」を運営していくという形になる。実施主体として「取手市中が生スポーツ文化クラブ」の中に各競技・種目があり、それぞれの指導員のリーダーが中心となって実施していく。また、協力団体として取手市部活動地域移行推進協議会があり、協力体制をお願いしている。

【委員長】

- ・来年度の具体的な取組について話があったが、この点について何かありますか。
- ・他市町村の様子を参考につくられたと思うが、取手市では、運営団体と実施主体があるが、この図を見ると2つの団体があるというふうに受け取れる。推進協会は会則があるがクラブの方はこういった仕組みになるのか、また推進協会との2つの関係性がわかりづらいところがあるのでは。運営方針は推進協会が決めるということでもいいか→

【事務局】

- ・運営方針は会則に載っている通りで、組織は、各種目ごとにクラブリーダーを決めて実施していくことになる。

【委員長】

- ・質問を変えると「取手市中学生スポーツ文化クラブ」というのは団体なのか。→

【事務局】

- ・大きなくりとして取手市中学生スポーツ文化クラブがあり、その中に野球などの種目があるというふうに考えている。

【委員長】

- ・つまり団体ではないから運営要綱はないという資料になっているといことですね。
- ・これをクラブ運営として見たときに、今日出席されている役員の方はどんな意見がありますか。

【委員】

- ・体制に関して確認します。軟式野球はブレイブとウエストの2チームがあるが、サッカー部に関しては今の段階では市内全中学校（6校）であるが、そこをいくつかにまとめるとか、テニス、バスケットもそうだと思うがどうまとめていくのかを決めるのは推進協会なのか、指導員も事務局側でやっていくという理解でよいのか→

【事務局】

- ・最善なのは、今人数が足りている部活動がそのまま地域クラブとしてできればいいが指導者がいなければできないし、来年度に関しては単独でチームが組めるようであればそのまま、尚且つ指導者の先生が兼職兼業でやっていただけるならそのままやってもらおうと考えている。人数が足りない場合はいくつかの拠点校でやっていくことになると思う。うまくいかなかったときに中学校側とうまく調整していく必要がある。

【委員長】

- ・スポーツ文化クラブというのが一つの団体であるなら団体のトップが必要なのではと考える。これが推進協会と一体化しているものなのか各競技ごとにクラブを作るようなイメージにもみえる。そうすると誰と誰が契約をして誰が責任をとるのか、誰にお金を払うのかという構造上のものがこの図からは見えにくい。単純に考えるとこの図で取手市中学生スポーツ文化クラブだけがあるとわかりやすい。このクラブの中に役員がいて理事長がいるという組織でその下に各競技ごとのクラブがあるという形だとわかりやすいのではないかな。会則も運営要綱しかないなのでこのクラブは団体ではないように見える。この仕組みの説明を事務局からお願いします→

【事務局】

- ・取手市地域クラブ活動推進協会を立ち上げて、推進協会に属している各クラブの総称して取手市中学生スポーツ文化クラブと名付けているという仕組みになっている。指導者をお願いしたり、支払いをしたり、会費を集めたりする業務をするのが取手市地域クラブ活動推進協会の事務局であるということである。

【委員長】

- ・なぜ取手市地域クラブ活動推進協会と取手市中学生スポーツ文化クラブの2つに分けているのか→

【事務局】

- ・分けているのかということですが、県のガイドラインにも運営団体、実施主体があるのでそれに合わせている。確かに一つにまとめた方がわかりやすいと思う。

【委員長】

- ・推進協会とスポーツ文化クラブがだめだといっているわけではなく、仕組みは理解したいと思っている。責任の所在は推進協会になると思うが、そこがクラブも運営しているという理解でいいのか。だとしたら分ける必要があるのかと思ったので。

【委員】

- ・取手市地域クラブ活動推進協会の方々は報酬があるのか→
- ・会費を徴収しても赤字になったときはどうなるのか。誰が責任をとるのか→

【事務局】

- ・事務局職員については報酬を支給するが推進協会の理事については交通費のみの支払いと考えている。
- ・子供たちが集まらなければ収入がないので市町村の先行事例を聞いていると途中から活動を抑えることになったり、補正予算を組んでもらって補助してもらったり、クラウドファンディングでお金をまわしていただくことになると思う。責任を負うのは推進協会になると思う。

【委員】

- ・今、活動を抑えるという話があったが、これは全体の話なのか個別チームごとの話なのか→

【事務局】

- ・人数が多いクラブとかは影響はないと思うが人数が少なければ収入もなくなるので謝金も払えなくなる。全体になるか個別になるかについてはまだ、不透明であるがお金があれば活動を自粛してもらうことも考えなければいけない。人数が集まらなければクラブが成立しないので切り捨てるとかやらないということにもなりかねないというのが現実である。悪い方向にいかないように話し合っていきたい。

【教育長】

- ・公的負担と個別負担のバランスの話になってくるがすべて個別負担にするつもりはないし、そういった時にどれくらい公的負担をいれていくのかをわれわれは考えて議員さんたちに説明しながら予算を確保していくことだと思う。事務局からもあったが子供中心に考えていかなければいけないのでお金がないからやらないということにはならないようにしたいと思っている。

【委員】

- ・運営要綱の話になったがその中で活動するクラブはこの要綱の中でやるというイメージを持ったのですがそれでいいのか→

【事務局】

- ・説明が足りなかったがそれと同じイメージでつくりました。

【委員】

- ・お金の調整や人数が少なくなったときの提案などをするのが推進協会でおこなって全体の運営をしていくというイメージでいいのいか→

【委員】

- ・表記の仕方が運営団体、実施主体ということで2段書きされているがこれが1つの組織か2つの組織かは人の見方によって捉え方が変わってきってしまうが、これはガイドラインに合わせて作っているので事務局のイメージとしてはあくまでも1つの組織として大きな器の中で推進協会があってその中に各クラブがぶら下がっているイメージで考えている。その中のクラブの総称を取手市中学生スポーツ文化クラブと名付けている。だから2つ組織があるようにみえるが事務局の考えでは1つでその中に各種目のクラブがあると考えている。
- ・会則と要綱が名前が分かれてしまっているので、ここについては整理していきたいと思っている。わかれているということではなく1つであるといことが示せる内容を入れていきたいと考える。

【事務局】

- ・中学校の部活動にないものについてアンケートでは様々意見があったが、地域部活動では中学生の多様な活動場所を作っていくことが目標の一つである。スポーツ少年団であったりスポーツ協会の各部の中で協力をお願いして中学生を受け入れてくれるところがあればアナウンスをすとか橋渡しをしたいと考えている。
- ・美術とバトミントンの講習会を開くことができ子供たちも喜んでいた。

【委員】

- ・参加費が少し高いという意見もあったが子供たちが望むならいいのではというアンケートの結果もでていたのでよいのでは。

【委員長】

- ・これは推進委員会のものとは別物という考えでよいのか→

【事務局】

- ・そう考えています。

【委員長】

- ・総会の出席者は誰になるのか→

【事務局】

- ・中学生、指導者、会員になることを希望した保護者になる。

(3) 令和8年度の事業計画について(資料P7~8)

【事務局】

- ・受益負担者と公費のバランスについて説明します。
- ・令和8年度から保護者にご負担いただく額としまして、一人当たり月会費3,000円、年会費2,000円を予定している。その中で指導者の謝礼、保険料などに充てたいと考えています。また、生活困窮世帯への負担軽減分や協会職員の人件費、地域クラブの消耗品などは、市からの補助金で賄っていきたいと考えている。

これらのことを考えて算出すると月会費5,500円、年会費2,000円かかってしまうのが現状であります。保護者の負担をなるべく少なくしてほしいという意見もあり市から一人当たり2,500円補助するというので考えています。そうすることで保護者負担と市、国の補助の割合は保護者負担4割、補助金6割のバランスになる。指導者の謝金については来年度1時間1,600円で考えています。会費は自治体によってばらつきがあり、取手市としては質の高い指導者を確保して持続可能な運営を実現したいと考えている。取手市の場合は謝礼金のほかに交通費についても支払っている。指導者の負担軽減に努めている。また、他自治体については支払いの上限を設けているところもありますが取手市は設けずに報酬を支払う方針でいる。金額だけでなく中身を理解していただければと思う。

【委員】

- ・シンプルに指導者の活動時間をどれくらいで見積もっているのか→

【事務局】

- ・モデル授業では、平均すると一人月24時間ぐらいとして見積もっている。プラス交通費を支払っている。

【委員長】

- ・普通で考えると土、日のどちらかで月4回、1日3時間で考えると12時間になるが24時間になっているがそのずれはどこから生じるのか→

【事務局】

- ・原則土、日どちらかで4時間になっているが、実際に大会とかが土、日なので、上限8時間ということでやっていると月平均多くても24時間ということで計算している。

【委員長】

- ・練習は県のガイドラインで最大でも3時間となっているので月4回であれば12時間だが実際には大会になると1日8時間ということになってしまう。それを含めると24時間と算出することになる。つまり大会引率も含めた金額になるということですね。

【委員】

- ・学校の長期休暇はどういう扱いになるのか→

【事務局】

- ・今年度は土、日に活動したものについては地域クラブ活動としてお金を支払っている。夏休みの平日は学校での部活動なので地域クラブ活動としてはノータッチである。

【委員】

- ・来年度はどういうふうになるのか→

【事務局】

- ・来年度も土、日、祝日に関しては地域クラブ活動として考えている。平日に関しては学校の勤務時間なので学校側と考えている。

【委員】

- ・現場の意見としては中体連や軟式野球連盟などの登録費とか道具代とか全部算出すると1年間で20万円ぐらいかかってしまう。なぜかという3校の連合チームなので3校分の請求が来てしまう。部活動も月2,000円くらい集めているので、地域部活動でさらに保護者に負担をかけることになると月5,000円くらい求めることになってしまう。今まで集めたことのないような金額になってしまっているの率直な意見として高いというイメージがある。現実問題としてもう少し補助がいただけたらと思う。

【委員長】

- ・取手市では、部活動と地域部活動が共存している形なので登録をそれぞれでやると登録費がそれぞれの学校分かかってしまう。

【委員】

- ・野球の登録費は中体連はないが、野球連盟には合同チームでも各学校（3校）分の登録料がかかってしまう。

【委員長】

- ・合同チームとして考えると軟式野球連盟の登録の仕方がおかしいのでは。

【委員】

- ・いろんな大会も見直す時期に入っているのでは。これから先、子供たちのためにと考えると教員はどんどんやってしまうので、今後どのように運営していくのか考えていかななくてはならない。

【委員長】

- ・中体連は学校の組織なので学校で変えられることができるが今まで通りのローカル大会を市費や受益者負担費でやっていくのはなかなか説明が難しくなっている。中体連側も大会は絞る、それ以外は別途料金が発生することを踏まえて考えて整理していかないと改革が進められない。学校側の決断、協会側の決断が必要である。

【委員】

- ・土、日の大会は中体連が絡んでいる大会ではないので、各スポーツ団体が運営しているのでさらに中体連がやめてほしいとは言えることではないので中体連で認めている大会は総体と新人戦しかない。

【委員長】

- ・自分がやっていたときは、それまで自由に出ていた大会を絞って、それ以上の試合を出すには教員の負担がかかるということを保護者や市民の方にも理解してもらうことが必要であったと思う。それでも出たいという場合は別途で参加費を集めるということで理解は得られると思う。そういったことも整理していかななくてはならない。

【委員】

- ・文化庁（吹奏楽）としてはなかなか楽器が買えないという問題がある。また、維持費もかかる。ピアノなら調律を毎年毎年やらなくてはいけないので、費用がかかる。子供たちが楽器をいい状態で使うための補助というのはどこでもらえるのか。今もらえる金額では難しいのでは→

【事務局】

- ・基本、学校の備品を借りることになるので修繕するということになると受益者負担になるということになるかと思う。どの地域クラブ活動も備品や修繕費については学校や市と検討していくことになると思う。

【委員】

- ・吹奏楽ではとにかくいい状態で楽器を維持していくにはお金がかかる。楽器の修繕にも見えるところと見えない部分があるのでお金の出所が今は違ってきているので検討していただきたい。

【委員】

- ・保護者の立場で意見を言わせていただくと思ったより高い金額ではなかったなと思う。なんとなく 5000 円ぐらいかと考えていたが市費で出していただけただけのはよかったと思う。ただ、土、日のどちらかなのですが、人数が集まらなくてできなくなるし、土、日もやると考えると民間のクラブと変わらなくなるし、子供を集めるということになるとサッカーだといいい芝生があるとかよい環境でできるということがある。民間はお金をかけるので、取手市も何かアドバンテージになることがないとだめなのではないか。取手市も優先的に使えるとかしていかないと民間のクラブに流れてしまう。人数が集まらなくて成立しないクラブは子供が集まらなくて分散してしまう。

【事務局】

- ・取手市の地域クラブは優先団体として市内の施設を使うことができる公的な団体なので希望があれば優先的に使用できることになっているのでメリットして PR していきたいと思っている。

【茨城県教育庁学校教育学部保健体育課から】

- ・取手市内の児童、生徒、保護者、教職員のアンケート調査、関係機関との連携により進めていただいていることに感謝している。
- ・まだ国からも示されていない受益者負担の方向を取手市がどの市町村も早く示されたことはとてもありがたく思っている。
- ・本協議会ででた問題は義務教育課にも伝えていきたい。

【アスフィール株式会社から】

- ・省略

○諸連絡

- ・次回、2月に第3回取手市部活動地域展開推進協議会を開催する予定である。

以上